

〈英米文学専攻〉

昭和女子大学大学院文学研究科 学位論文審査基準

修士の学位論文については、博士前期課程修了に必要な単位をすでに修得済あるいは論文提出学期内に修得予定であることを提出条件とし、その審査にあたっては、以下を評価基準とする。また、学位論文の審査は主査1名、副査1名が査読し、口頭試問を経て、可否を判定する。

- (1) 研究の目的と意義が明確である
- (2) 先行研究が適切に取り扱われた上で当該研究が位置づけられている
- (3) 研究方法およびその分析方法が研究目的に照らして適切である
- (4) 論文構成が的確で、論理展開が明確である
- (5) 適切な言語表現および図表を用いて明確で論理的な論述ができている
- (6) 論文の構成に整合性があり、分量が十分である
- (7) 口頭試問の質疑応答で修士の学位に相応しい専門性を示した

以上

〈言語教育・コミュニケーション専攻〉

昭和女子大学大学院文学研究科 学位論文審査基準

修士の学位論文については、博士前期課程修了に必要な単位をすでに修得済あるいは論文提出学期内に修得予定であることを提出条件とし、その審査にあたっては、以下を評価基準とする。また、学位論文の審査は主査1名、副査1名が査読し、口頭試問を経て、可否を判定する。

- (1) 研究の目的が明確である
- (2) 先行研究が適切に取り扱われた上で当該研究が位置づけられている
- (3) 調査手法およびその分析方法が研究目的に照らして適切である
- (4) 研究目的に合った適切な分析・考察が行われている
- (5) 適切な言語表現および図表を用いて明解で論理的な論述ができている
- (6) 論文の構成に整合性があり、分量が十分である
- (7) 最終発表会における口頭発表および質疑応答が的確に行われ、修士の学位に相応しい専門性を示した

英語教育専修コース（1年制） 自己申請課題報告書審査基準

英語教育専修コース（1年制）の自己申請課題報告書については、博士前期課程修了に必要な単位をすでに修得済あるいは報告書提出学期内に修得予定であることを提出条件とし、その審査にあたっては、以下を評価基準とする。また、報告書の審査は主査1名と副査1名が査読し、口頭試問を経て、可否を判定する。

- (1) 研究の目的が明確である
- (2) 先行研究が適切に取り扱われた上で当該研究が位置づけられている
- (3) 調査手法およびその分析方法が研究目的に照らして適切である
- (4) 研究目的に合った適切な分析・考察が行われている
- (5) 適切な言語表現および図表を用いて明解で論理的な論述ができている
- (6) 報告書の構成に整合性があり、分量が十分である
- (7) 口頭試問における質疑応答が的確に行われ、修士の学位に相応しい専門性を示した

以上

〈文学言語教育専攻〉

昭和女子大学大学院文学研究科 学位論文審査基準

修士の学位論文については、博士前期課程修了に必要な単位をすでに修得済あるいは論文提出学期内に修得予定であることを提出条件とし、その審査にあたっては、以下を評価基準とする。また、学位論文の審査は主査1名、副査1名が査読し、口頭試問を経て、合否を判定する。

- (1) 研究の目的が明確である
- (2) 先行研究が十分に調査・分析され、収集した資料・情報の扱いが的確である
- (3) 分析方法や考察が研究目的に照らして適切である
- (4) 論文の構成に整合性があり、形式が適切である
- (5) 論述が論理性及び一貫性を備えている
- (6) 文章表現及び表記が学術論文として精密さを備えている
- (7) 口頭試問において修士の学位にふさわしい専門性を示した

英語教育学領域 自己申請課題報告書審査基準

英語教育専修コース（1年制）の自己申請課題報告書については、博士前期課程修了に必要な単位をすでに修得済あるいは報告書提出学期内に修得予定であることを提出条件とし、その審査にあたっては、以下を評価基準とする。また、報告書の審査は主査1名と副査1名が査読し、口頭試問を経て、合否を判定する。

- (1) 研究の目的が明確である
- (2) 先行研究が適切に取り扱われた上で当該研究が位置づけられている
- (3) 調査手法およびその分析方法が研究目的に照らして適切である
- (4) 研究目的に合った適切な分析・考察が行われている
- (5) 適切な言語表現および図表を用いて明解で論理的な論述ができている
- (6) 報告書の構成に整合性があり、分量が十分である
- (7) 口頭試問における質疑応答が的確に行われ、修士の学位に相応しい専門性を示した

以上

〈文学言語学専攻〉

昭和女子大学大学院文学研究科 学位論文審査基準

博士の学位論文については、博士後期課程修了に必要な単位をすでに修得済あるいは論文提出学期内に修得予定であることに加え、審査を経て掲載された論文が規定数あることを条件として提出するものとし、その審査にあたっては、以下を評価基準とする。また、学位論文の審査は、3名以上の審査委員会を設置し、公開審査会を含む3回の審査会を通じて行う。

- (1) 研究の目的が明確で学術上の意義がある
- (2) 先行研究が十分精査・分析された上で当該研究が位置づけられている
- (3) データの質と量およびその分析方法が研究目的に照らして適切である
- (4) 結論が深い考察から導かれ、新たな知見を提供している
- (5) 論述が論理性および一貫性を備えている
- (6) 論文の構成に整合性があり、分量が十分である
- (7) 文章表現および図表等の形式が学術論文としての精密さを備えている
- (8) 審査会における口頭発表および質疑応答が的確に行われ、自立した研究者としての高度な専門性を示した

以上